

土木学会の活動をもっと強力に

—企画委員会設立と活動について—

仁 杉 巖*

ジの確立と学会活動の強力化を推進することになった。

1. 企画委員会が設けられたいきさつ

土木学会の最近の活動が不十分ではないかという批判は私が副会長に就任する前から聞いていたし、私自身も何か土木学会の活動が活発でないという不満を感じていた。昭和 42 年から副会長として理事会に出席していたが、国鉄の常務理事という激職にいたので、一年間はこれを解決の糸口もつかめず過ぎてしまった。昭和 43 年春に国鉄を退任してからはようやく閑になり落着いている。いろいろ考えられる立場にあったとき、土木学会の理事会に大学土木教育委員会（委員長 林泰造さん）より「土木界の将来の発展のため土木学会は何をすべきかを検討するための委員会の設立の要望」が提案された。その要旨は土木界は全般的に新しい分野へ進出するという点についてやや積極的な姿勢に欠けており、その結果として分野によっては土木技術者が活動すべき役割を十分果していないのではないか、こうした土木界の欠点を打破するためには、土木界ならびに土木技術者の活動分野などについて将来の「イメージ」をつくるのが土木学会としてきわめて重要なことと考えられるが、こういうことがらを検討する委員会がないから設置するよう要望する、というものである。

理事会ではこれを契機として「土木界の将来」について、理事会でも討論を重ねたが、なかなか問題点がつかみ難いので、一度有識者の意見を聞いてみようということになり、その結果催されたのが土木学会誌 2 月号に発表された 2 回にわたって行なわれた座談会である。その内容は重複するので再録しないが、この座談会で問題点がかなり明確になり、これらの点を考えながら理事会で討論された結果、土木界の改善について非常に熱心に指導された石原前会長始め、理事の方々の強い合意によって企画委員会を設置して、土木界の将来に対するイメー

2. 委員会の発足

こうした経過をたどって、昭和 44 年 1 月に企画委員会が設置され、表-1 に示すような委員が委嘱され、第一回委員会で私が委員長に選出されて正式に委員会が発足したのである。委員はほぼ昭和 6 年ごろから昭和 25 年ごろの間に学校を出られた方々のうちから選ばれている。私のような若輩で浅学非才のものが沢山の有能な先輩がおられるのに委員長をお引受けしたのは、当時土木

表-1 企画委員会委員名簿 (50 音順)

役 職	氏 名	職 名
委員長	仁 杉 巖	極東鋼弦コンクリート振興 (株)
委員	安 藤 道 夫	三井建設 (株)
〃	石 川 六 郎	鹿島建設 (株)
〃	板 倉 忠 三	北海道大学
〃	岩 崎 敏 夫	東北大学
〃	岡 部 保 恵	運輸省港湾局
〃	奥 村 敏 恵	東京大学
〃	川 崎 敏 視	日本鉄道建設公団
〃	河 野 康 雄	パンフィックコンサルタント (株)
〃	小 林 泰 泰	水資源開発公団
〃	小 林 健 三 郎	東京電力 (株)
〃	米 谷 栄 二	京都大学
〃	篠 原 謹 爾	九州大学
〃	鈴 木 信 孝	日本交通技術 (株)
〃	鈴 木 立 夫	(株) 鴻池組
〃	鈴 木 秀 昭	日本国有鉄道建設局
〃	高 橋 国 一 郎	建設省道路局
〃	谷 藤 正 三	セントラルコンサルタント (株)
〃	友 永 和 夫	(株) 横河橋梁製作所
〃	成 岡 昌 夫	名古屋大学
〃	南 部 三 郎	建設省計画局
〃	林 泰 造	中央大学
〃	土 方 大 式	近畿日本鉄道 (株)
〃	比 留 間 豊	日本道路公団
〃	堀 武 男	富士製鉄 (株)
〃	森 茂	コンサルタント
〃	八十島 義之助	東京大学
幹 事	門 屋 毅	富士電鉄 (株) 市場開発部
〃	工 藤 尚 男	日本国有鉄道審議室
〃	萩 原 浩	建設省大臣官房

* 正会員 工博 土木学会企画委員会委員長、極東鋼弦コンクリート振興 (株)

学会の副会長でこの委員会の設立までの経過をよく知っていたので、今後の委員会の運営に便利であろうとの石原会長のご指示があったためである。

ここで企画委員会の性格を考えておきたい。学会の執行機関は理事会であるが、理事会の議題には執行機関としてのいろいろな事項があるため、企画委員会で取り上げようとする問題を十分討議する余裕がない。このような理事会の欠点を補完するために、その道の有識者を委員とする企画委員会で十分討議し、その結果を理事会に進言するという形をふんで土木学会の活動を強力にしようという考え方である。

さて委員会を開いてみると、委員の方々も討論すべき問題をおぼろげに了解していても、それをどういうふうに具体化してゆくかという問題は明確でなく、まず委員会で取り上げることがらについて意志を統一する必要があるということになった。そこで理事会、座談会等で討論された問題点を中心として、いろいろと議論された結果、とりあえず次のような考え方で議論を進めてゆくということになった。

企画委員会で取り上げる事項

(昭和 44 年 5 月 7 日)

企 画 委 員 会

I 土木界が今後の科学技術の発展に十分協力してゆくためには、現在の活動では不十分であって、もっと広い視野に立って、新しい分野で積極的に活躍すべきである。

このためにまず

(1) 科学技術、経済等の発展の見通しと、これにもなって土木界の果たすべき役割について検討する。

しかし(1)の事項の審議にはかなりの時間を必要とするので、取りあえず早急に取り上げて調査研究した方がよいと考える事項は

(2) 国土総合開発計画(都市計画を含む)

(3) 原子力関係

(4) 海洋開発

(5) 水資源関係(海水淡水化を含む)

(6) 大規模な構造物

長大橋梁、長大トンネル、石油貯蔵、パイプライン等

(7) 電算の活用と各種手法の取り入れ

II 土木学会の今までの活動についての反省

従来から今までの土木学会の運営等について批判があったが、これをまとめてみると、

(1) 土木学会には会員が自由に発言するような環境がないのではないか。

(2) 科学技術がめざましく発展している現在では、

土木界だけで解決できない問題が沢山ある。もっと他の分野(自然科学、人文科学を含めて)との連繋を強める必要がある。

(3) 土木学会は調査研究にあたって、各セクトのバランス等にこだわることなく、実際にことにあっている者を中心にして、機動性をもった活動をすべきである。

(4) 土木界内の各セクトの間の融合、連繋、協力関係をもっと促進すべきである。たとえば

(a) 官界と業界

(b) 各官庁の間

(c) 各年令層の間(学生を含む)

(d) 関係学・協会との間

(5) 海外活動の促進

土木技術者が海外で活動するために、経済性を考えた大きなプロジェクト等を十分にこなす技術者の養成、東南アジアの関係学協会と連繋を強める、海外からくる留学生制度の改善など問題が多い。これらの問題点を洗い出し対応策を考える必要がある。

(6) 今まで土木学会で積極的に取り上げなかった事項について、もっと調査研究する必要がある。

たとえば

(a) 総合計画、事業の経済性など大きな投資についての発表、研究、討論等

(b) 用地、契約、積算、品質管理、公害など土木事業を行なう上でどうしても必要な法律、規定、事務処理等

(c) 関係業法(建設業法、建設コンサルタント業法、土木士法等)その他関係法規の制定や改訂等

(d) レクリエーション施設についての検討

(7) 学会行事のあり方

(8) 学会誌が会員に対する情報伝達を十分果しているか

(9) 各種委員会のあり方、方針、調整等

これらにもなって

III 土木関係学校教育のあり方

IV 土木界としての研究長期計画

V 学会の運営

(1) 理事会等の運営、事務局のあり方

(2) 将来にわたる財政の見通し

この案は決して最終的なものでなく、委員や会員の方々の新しい提案があり取り上げるべきであると委員会が決めれば順次改訂するつもりである。この案の基本的な考え方は、**I**で将来のビジョンを取り上げ、**II**で今までの学会活動を反省し、これらを総合して**III**、**IV**、**V**の問題に取り組む立て前であるが、問題を解決する方向としては必ずしもこの順序にしたがうことなく、今すぐ

に取り上げられるものは別の委員会を設置するなど、なるべく早く解決するよう努力することとしている。

ここで特に強調したいのは、今までの学会活動が少し学究的な方向に向きすぎていたのではないかと、今後は今までの学究的な活動に加えて沢山の会員がおられる一般的な土木技術者に、より多くの奉仕をすべきだと思いがもられていることである。

この案をみて私が反省しているのは、企画委員会で取り上げている問題がほとんど物質を対象とした土木工学に向けられていて、土木技術者としての基本的な考え方や心がまえといったような精神的な活動方面に目を向けていないという点である。これらの問題はまとまり難いことだが、Iの(1)の土木界の将来のビジョンを討論するときに取り上げてみようと考えている。

またこれだけ広範な活動をする、今までの学会の組織や財政では、まかないきれない心配もあるが、企画委員会での議論の進展をみて新しい観点から検討する必要があるかと思っている。

3. 企画委員会の現在まで(第4回委員会まで)の活動状況

2. で述べたように、一応企画委員会で討論すべきことがらの合意をみたので、これらの問題点を解決するために解決できるものから早く手をつけることとし、テーマごとに委員とその道の有識者に、表-2のような分担で世話人になっていただき、基本的な考え方をまとめて企画委員会に提案してもらい討論することになった。委員の方の都合もあって討論の順序が異なるが、今までに一応討論された概要は次のようである。

まず私が担当しているIの(1)「科学技術、経済等の発展の見通しとこれにともなって土木界の果すべき役割」というテーマは非常に重要であるが、難解な問題でまだ方向を探っている程度である。ただ先日40才前後の比較的若い会員の意見を聞く機会があったが、私自身も啓発されることが多かったので、その要点を述べることにする。

(1) 未来の社会は人間がかくありたいという欲望にぞって創造されてゆくので、今までのように、投資効果など経済原則をあまり重くみすぎると、将来の見通しを誤るのではないかと。

(2) 今までのcivil engineeringは物資を対象とした技術と考えていたが、civil engineeringはそれだけにとどまってはいけない。だからcivil engineeringはsocial engineeringという面をもって人間社会を広くみつめたengineeringと考えなくてはなるまい。そのためには、電気、機械、その他のengineeringの発展を

表-2 企画委員会の調査研究事項別に原案作成分担表
(昭和44年5月7日)

別紙 対照番号	調査研究事項	担当者	所属
I-(1)	科学技術、経済等の発展の見通しと、これにともなって土木界の果すべき役割について検討する。	仁杉 巖	極東鋼鉄コンクリート振興(株)
(2)	国土総合開発計画	米谷 栄二 南部 三郎 若生 新一 岡部 達郎	京都大学 建設省 国 鉄
(3)	原子力関係	小林健三郎 左合 正雄 國分 正胤	東京電力(株) 東京立大学 東京大学
(4)	海洋開発	本間 仁武 堀 武男 岡部 保	洋 大 学 東 大 学 富士製鉄(株) 運 輸 省
(5)	水資源関係	小林 泰 石原 藤次郎 高橋 裕	水資源開発公団 京 大 学 東 京 大 学
(6)	大規模構造物長大トンネル	長大トンネル はトンネル工 学委員会	
(6)	パイプライン	奥村 敏恵 武井 篤	東京大学 住友金属工業(株)
(7)	電算の活用と各種手法の取り入れ	成岡 昌夫	名古屋大学
II-(4)	土木界内の各セクタ間の融合、連繫、協力関係	森 茂 川崎 敏視 八十島 義之助	コンサルタント 日本鉄道建設公団 東 京 大 学
(5)	海外活動の促進	鈴木 信孝 友永 和夫	日本交通技術(株) 横河橋梁(株)
(4)-(a)	総合計画、事業の経済性等、大きな投資についての発表、研究、討論等	安藤 道夫	三井建設(株)
(7)	学会行事のあり方	成岡 昌夫	名古屋大学
(8)	学会誌が会員に対する情報、伝達を充分果しているか	成岡 昌夫 森 茂	名古屋大学 コンサルタント
(9)	各種委員会のあり方、方針調整等	羽田 巖 仁杉 巖	土木学会 極東鋼鉄コンクリート振興(株)
III	土木関係学校教育のあり方	奥村 敏恵 林 泰造	東 京 大 学 中 央 大 学
IV	土木界としての長期研究計画	板倉 忠三 石原藤次郎	北海道大学 京 都 大 学

有機的に結合するとか、その間隙を埋めるとかいう機能もcivil engineeringの中に取り入れる必要がある。

(3) 公共投資というものは今までの社会が若い発展をしていたときには開拓的な使命が強かったが、現在のように民間の経済的なエネルギーが強くなっている時代には、民間の投資エネルギーを十分活用するよう仕向ける公共投資、民間の投資の間隙を補完するような公共投資を考えなくてはならない。

(4) 今後の土木界にとって深刻な問題は、技術者と労務者の不足であって、これに対応する長期的な策を立てる必要がある。

(5) 土木技術者は文化的な要素をもつ人が少ないのではないかと。建築家は歴史が大きな研究対象になり、それを通して、広い文化的な視野をもつようになるらしいが、土木屋ももっと一般的文化を身につけ広い視野をも

つように方策を考える必要がある。

(6) 土木屋は情報活動にもっと関心をもつべきで、PRも下手である。

これらの意見はまだ議論をつくされたものでなく、もちろん委員会の意見でもないが、今後計画している委員会での議論の対象になるものなので、会員の方々にも紹介し、会員からも活発なご意見をうけたまわりたいと願っている。

次にIの(2)国土総合開発関係では、世話人のご意見で、とりあえず鉄道、道路、航路、空路等による輸送の総合合理的体系について検討を始めることになった。委員会では大都市の問題も当然取り上げるべきだとの意見もあって、この点についても世話人の方々が検討することになっている。原子力、電算と各種手法の取り入れ等は近く委員会で検討する予定である。海洋開発については世話人よりその構想が示され討論の結果、企画委員会より理事会に新しくこれらの問題を検討する委員会を新設するよう建言することになった。なお日本の国土総合開発という立場から地下開発(地下街、地下鉄、地下居住等)が特に必要であるとの強い意見があって、企画委員会の建言により会長より、トンネル工学委員会に対してより早く、より安く地下開発をする方策をお考え願うよう要望書が出された。

IIの土木学会の現在までの活動についての反省というテーマのうち(1)~(3)の項は、委員会等を設置して研究するというより、いろいろな委員会の設立や討論の過程で取り入れるべきであり、これらの点についてのより深い検討や具体的な取り入れ方等については、将来ビジョンを討論する委員会で討論してみたいと考えている。これらの点についての討論のうちに、今までの学会の委員会活動で結論を出すまでに時間を取り過ぎるという強い意見と、各種委員会を総合し調整する機能が不十分であるという意見があったが、どう具体化するかは、これから研究しなくてはならない。

(4)の土木界の各セクト間の融合、連繋、協力関係をもっと促進すべきではないかというテーマは、土木界を発展させるために乗り越えねばならない基本的な重要な問題だと考えているが、なかなかむずかしい点もあって世話人が慎重に検討しておられる。

(5)の海外活動の促進は委員会でも特に発言が多く、早く、具体的な策を打ち出すべきだという意見が一致した。その後世話人の方々の努力により、大事業を計画する能力のある技術者の養成、海外事業の公開入札関係の書類や示方書、契約書等の検討、語学の研修と国際感覚の涵養、海外資料の整備や研究、海外へコンサルタント業や建設業が進出するための政府補助や在外公館の技術アタッシュの強化等の考え方が提案された。これを受け

た企画委員会で討論の結果、現在まで設置されている海外連絡委員会の改組、拡充等も考えて、何らかの方策をいそいで進めるべきだとの意見を理事会に建言することに決まった。

IIの(6)の総合計画、事業の経済性等大きな投資についての発表、研究、討論等という項目は海外活動の促進の項でも述べたように、最近の土木界には、いわゆる技術的な事項について有能な人はいるが土木以外の広い知識をもって大きな計画をこなしようとする人が少ないのではないか。このため国の政策や海外進出等の面で土木界が遅れをとっているという認識に立って反省したものである。もちろん、土木技術者には土木工事を計画する人、学問的に技術を研究する人、現場の作業をこなしてゆく人達がそれぞれ必要であるが、それだけでは十分でなく政策的な見解や大きなマスタープランをつくりうる人も必要だという意味である。これは、簡単に解決できる問題ではなく、地道な忍耐強い努力が必要だと思うが、目下世話人の方が具体的に研究しておられる。

以上のほか建設業のことを土木学会で取り上げて研究すべきだという意見がある。今までの学会は比較的学術的な方面の活動が多く、事業面で建設業界に関する問題を取り上げることが少ない。しかし、土木学会員には沢山の建設業界の方がいるし、建設業によって沢山の建設工事が行なわれている以上、建設業関係のいろいろな問題を取り上げるのは当然だということである。これに反して公共事業の多い土木界では、中立的な立場にある委員、企業者側委員、業者側委員で構成する委員会で討論して結論を出しても、企業者である官庁ではいろいろな制約があって、その結果をそのまま取り入れることがむずかしい場合もあるので、この種の委員会を学会に設けることは困るという企業者側からの意見もある。これも企業者側から見た場合当然考えるべき意見であるが、この間の事情をどう解決するか何かよい策はないかを、いま研究している。

建設コンサルタント業界にも同じような事情が考えられるが、建設業にくらべると経営の規模も小さいし、海外進出というような共通の問題もあるので、このほうは比較的円滑に軌道にのってゆくことと期待している。

最近は公害の問題が重要になってきたが、これに対して学会がどのように取り組んでゆくか、とりあえず関係者の懇談会でも始めようかと考えている。

また、土地問題に取り組むべきだという意見があるがまだまだとまっていない。このほかにも学会誌の内容をもっと会員に親しめるような方向になおすべきである、現在の学校教育のあり方を根本的に考え直すべきだ、土木関係の研究項目が古い型から脱け出し切れなくて研究の主力が細かい技術の研究に偏りすぎているので、もっと

広い視野に立って研究題目を選びなおす必要がある、学会の予算の使い方を再検討すべきである、学会の事務局を強化すべきである、今後の学会の財政の見通しが暗いのに、このように各方面での活動をすると資金が不足するが、その対策をどうするか等、沢山の問題が提起されているが今後ともあせらず精力的に一歩一歩と解決しなくてはなるまい。

4. 会員の方からのご意見を聞かせて下さい

以上述べたのは企画委員会で討論された事項を私の責任で私見を加えて報告したものである。企画委員会の使命は非常に重要なので、会員の方々のご意見を十分伺っ

てそれを結集してゆかなくてはならないと思っている。特に企画委員会で取り上げている事項以外にも検討すべきことがらがあるのではないかと、また企画委員会で取り上げている項目でもその考え方が十分でなく、もっと違った立場からも検討する必要があるのではないかと等、われわれも自信がもてないでいる。どうか会員の方々から活発なご意見を企画委員会なり、委員の方々なりにご連絡下さるようお願いします。

なお、各テーマについては大略の方針が決ったら順次責任者の方から学会誌に報告していただくつもりですが、とりあえず企画委員会の性格、検討項目、解決法の考え方、第4回委員会までの現況等を報告した次第である。
(1969. 6. 19・受付)

鹿島研究所出版会 専門分野別在庫目録

土木・都市・建設経営・施工管理

<図書目録呈>

新刊

- **地盤注入** = 基本理論と施工技術 =
H. カンプフォール著 / 齊藤・福住共訳
A 5 判・450頁・¥2,600
地盤注入の理論と施工技術の体系化を示した唯一の書。現場土木技術者の基本図書
- **近畿圏** = その人文・社会科学的研究 =
京都大学近畿圏総合研究会編
B 5 判・370頁・¥5,700
近畿圏の歴史・地理・社会・心理・言語学的な地域性を通じた知識交換の成果。

土木一般

- 土木年鑑1969……………¥3,500
- 薬液注入工法—指針と解説— ……¥1,400
- 土木工事ののり面保護工 ……¥1,500
- 鉄筋コンクリートの耐久性 ……¥ 430
- 基礎反力の解法 ……¥ 800
- 高速道路計画論 ……¥2,400

- 土木・建築の防錆防食……………¥1,200
- 現場技術者のための土質工学 ……¥2,500
- 土地造成……………¥1,000
- トンネル施工の問題点と対策 ……¥1,300
- 軟弱粘土の圧密……………¥ 800
- 軟弱地盤における
建築の地下掘削工法 ……¥ 590
- 井筒基礎……………¥ 450
- 簡易索道の計画と設計……………¥ 980
- 荷役・運搬の計画と設計 ……¥1,200
- アースドリル基礎工法……………¥ 600
- 構造物基礎の応力調整工法 ……¥ 580
- 道路土工の調査から設計施工まで ……¥1,300
- シールド工法……………¥1,600
- 水底トンネル……………¥ 840
- 爆破—付ANFO爆薬—……………¥ 900
- インターチェンジの計画と設計 ……¥4,500
- 土木新技術選書<全5巻>… ¥1,000~1,400

都市工学

- 増補 都市問題事典……………¥3,500
- 都市問題概説……………¥ 950
- 都市開発講座<全3巻>…各 ¥ 980
- 駐車場の計画と設計……………¥2,500
- 新都市の計画……………¥2,500
- 都市の自動車交通……………¥5,300
- 新しい都市の未来像……………¥ 920
- フランスの都市計画……………¥ 900

- 都市の新しい運輸計画……………¥ 750
- オランダの総合開発計画……………¥2,000
- 東京2,000万都市の改造計画 ……¥1,500
- 都市の土地利用計画……………¥3,200
- 国土と都市の造形……………¥5,600
- 高蔵寺ニュータウン計画……………¥2,700
- ランドスケープ・アーキテクチャ ……¥5,300
- 敷地計画の技法……………¥1,600
- 高速道路計画論……………¥2,400
- 都市のデザイン……………¥6,300
- 新しい都市理論……………¥1,200
- 前産業型都市……………¥1,200
- 地域再開発……………¥1,200
- 変動する大都市……………¥1,000
- 英国の都市計画法……………¥1,200

建設経営・施工管理

- 工事管理……………¥ 800
- 工事原価管理……………¥ 650
- わかりやすいPERT・CPM ……¥1,600
- 新しい工程管理……………¥1,300
- 建設業成功の秘訣……………¥ 680
- 新版ジョイント・ヴェンチュア ……¥ 480
- 国際ジョイント・ヴェンチュア ……¥1,500
- 工事入手から未収金回収まで ……¥ 480
- 建設経営入門……………¥ 750
- 道路経済学……………¥1,400
- 建設業経営選書<全13巻>… ¥700~1,500

鹿島研究所出版会

■ 東京都港区赤坂六丁目 5 13 電話/582/2251 振替東京180883